

令和6年度 防災学習・避難訓練実施における生徒の意識調査について

●アンケート調査結果

回答 (%表示)

【1年生】

NO.	質問事項		A	B	C	D
1	自分には、地震に対する知識が十分にあると思いますか？（実施前） 防災学習や避難訓練後、地震に対する知識は身に付きましたか？（実施後）	前	21.0	52.5	21.5	5.0
		後	53.4	42.0	4.0	0.6
2	自分には、津波に対する知識が十分にあると思いますか？（実施前） 防災学習や避難訓練後、津波に対する知識は身に付きましたか？（実施後）	前	21.5	47.5	24.9	6.1
		後	51.7	44.3	4.0	0
3	地震や津波が発生した時、慌てずに避難できると思いますか？ ※実施前は地震と津波それぞれの項目で質問していたため、平均値で記載	前	65.8		34.2	
		後	93.8		6.2	
4	地域の防災について興味・関心がありますか？	前	17.7	41.4	25.4	15.5
		後	33.0	47.2	13.6	6.2

【2年生】

NO.	質問事項		A	B	C	D
1	自分には、地震に対する知識が十分にあると思いますか？（実施前） 防災学習や避難訓練後、地震に対する知識は身に付きましたか？（実施後）	前	14.3	56.5	22.4	6.8
		後	44.8	43.1	9.2	2.9
2	自分には、津波に対する知識が十分にあると思いますか？（実施前） 防災学習や避難訓練後、津波に対する知識は身に付きましたか？（実施後）	前	12.4	46.6	30.4	10.6
		後	43.1	42.5	10.9	3.4
3	地震や津波が発生した時、慌てずに避難できると思いますか？ ※実施前は地震と津波それぞれの項目で質問していたため、平均値で記載	前	69.3		30.7	
		後	86.3		13.7	
4	地域の防災について興味・関心がありますか？	前	18.6	45.3	28.0	8.1
		後	33.3	42.5	16.1	8.0

【3年生】

NO.	質問事項		A	B	C	D
1	自分には、地震に対する知識が十分にあると思いますか？（実施前） 防災学習や避難訓練後、地震に対する知識は身に付きましたか？（実施後）	前	19.4	55.3	21.6	3.7
		後	62.6	31.3	2.7	3.4
2	自分には、津波に対する知識が十分にあると思いますか？（実施前） 防災学習や避難訓練後、津波に対する知識は身に付きましたか？（実施後）	前	17.9	53.0	23.1	6.0
		後	58.5	34.7	3.4	3.4
3	地震や津波が発生した時、慌てずに避難できると思いますか？ ※実施前は地震と津波それぞれの項目で質問していたため、平均値で記載	前	72.8		27.2	
		後	91.9		8.1	
4	地域の防災について興味・関心がありますか？	前	18.7	49.3	27.5	4.5
		後	49.0	39.5	7.5	4.1

NO. 1 A：十分にある（身に付いた） B：少しはある（身に付いた） C：あまりない（身に付いていない） D：全然ない（身に付いていない）

NO. 2 A：十分にある（身に付いた） B：少しはある（身に付いた） C：あまりない（身に付いていない） D：全然ない（身に付いていない）

NO. 3 A：慌てずにできる B：なんとかできる C：できるか不安 D：できないと思う

NO. 4 A：とても興味・関心がある B：少し興味・関心がある C：あまり興味・関心がない D：全然興味・関心がない

●調査結果からの分析と今後の課題

本調査における質問事項1に対して「地震に対する知識が十分にある（身に付いた）」等と肯定的に回答する生徒の割合が、実施前と後では1年生で21.9%増加・2年生で17.1%増加・3年生で19.2%増加している。約2割増加させることができている。このことから避難訓練を形骸化させることなく、冷静に避難ができるよう正しい知識と具体的な避難方法を指導できたのではないかと考える。残りの6.1%の生徒は知識が身に付いていないので、この生徒たちを置き去りにするのではなく、具体的な対策が必要であると考え。実際に被災した経験のある方に講演を依頼する、社会や理科、保健などで教科横断的に地震の備えについての授業を実施するなどの対策が考えられる。

本調査における質問事項2に対して「津波に対する知識が十分にある（身に付いた）」等と肯定的に回答する生徒の割合が、実施前と後では1年生で27.0%増加・2年生で26.6%増加・3年生で22.3%増加している。約25%増加させることができている。60%台から90%台まで増加したことから、津波に関して「他人事」「他所事」と感じていた生徒が多かったのではと予測する。当事者意識を持つことができるような取組を実施する必要性を感じた。過去の災害例などを示し、発生のメカニズムや想定される被害などをもとに知識理解を深めさせながら、避難訓練・防災学習に取り組ませたい。

本調査における質問事項3に対して肯定的に回答する生徒の割合が、実施前と後では1年生で28.0%増加・2年生で17.0%増加・3年生で18.3%増加している。学校平均で見ると、肯定的に回答する生徒の割合が実施前の69.3%から実施後90.4%と21.1%の増加が見られた。「実際に地震や津波が発生した時に自分たちの住んでいる地域のどこへ避難するのか」「自分たちが住んでいない地域（外出先など）で地震や津波が発生した時にどこへ避難するのか」「高台はどこにあるのか」「津波が自分たちの住んでいる地域にどれくらいの時間で到達するのか」といった内容などについても考えさせる取組を実施したい。また、この内容については家庭における防災意識にも関わってくる部分と考える。生徒への啓発から、家庭でも防災に備えて防災グッズの準備などにも取り組んでもらいたいところである。

本調査における質問事項4に対して肯定的に回答する生徒の割合が、実施前と後では1年生で21.1%増加・2年生で11.9%増加・3年生で20.5%増加している。調査項目の中で肯定的に回答する生徒の割合が最も少ない結果となった。（参考：前期学校評価アンケート結果57.3%・今回結果81.5%）

知識理解や避難訓練への取り組み意識は高まったものの、自分たちの実生活と深く結びつけてとらえきることができていないのが現状である。その原因の一つとして、今回の防災学習や避難訓練を振り返ると、自分たちの暮らす西淀川区に関連した教材が少なかったように考えられる。街地域の防災マップ（ハザードマップ）や区役所の防災担当との連携を基盤に地域の防災への興味・関心を持たせたい。構想としては、避難場所となる可能性のある歌島中学校体育館を実際の避難場所と想定し、段ボールベッドを寝具として扱う体験や災害用備蓄物資を運ぶ体験などを身近に考えられる機会を作っていく。また、今回の防災学習で紹介した地域の「ジュニア防災リーダークラブ」の募集などで意識改善を促したいと考えている。